

第9回植物の嫌気応答に関する国際会議 (ISPA) のお知らせ

前号・前々号でもお知らせしたとおり、本会が後援する第9回植物の嫌気応答に関する国際会議 (9th Conference of the International Society for Plant Anaerobiosis, ISPA) が、今年 (2007年) 11月に宮城県宮城郡松島町で開催されます。多数ご参加下さい (発表申込みの締切は7月2日です)。

なお、開会が1日早くなり、11月18日 (日) ~23日 (金) の開催となりました。ご注意下さい。

ISPA の概要

植物の嫌気応答に関する国際会議 (ISPA) は、土壌の湛水、冠水、宇宙飛行、組織内への浸透、貯蔵環境及び生産物の包装など、広範な場面で生ずる通気障害に対して、植物が引き起こす反応に興味を持つ研究者の集まりです。湛水や冠水は、多くの植物生態系においては、主要な環境ストレスとなっています。即ち、これらは自然湿地を特徴づけるものであり、一方ではコメの大きな生産性を支えているものであり、また他方では、多くの農業生産体系において生産性を低下させる要因となっています。研究対象となるのは、海洋、淡水や汽水沼沢、湿地、季節的に湛水や冠水が起こる陸上の生態系 (作物や農業耕作地を含む) で生活する植物です。ISPA の会員は、これらの植物の研究を、生態学、生態生理学、植物個体及び細胞生理学、生化学、分子生物学、及び遺伝学など生物の多くの水準で研究しています。

会議の目的

今回の会議の開催に当たり、日本の組織委員会は、関連分野の第一線で活躍している ISPA の会員以外の研究者にも広く参加いただくため、「作物と野生植物の冠水適応生物学」を副題として付けました。また、今回の会議が日本で開催されることで、水稻や作物など農学研究者を始め、多岐にわたる植物の嫌気応答に興味を持つ、多くのアジアの研究者が参加できる機会となることを期待しています。さらに、関連分野で研究する全ての日本の研究者についても、学術情報の交換を促進するとともに、海外の研究者と新たな連携関係を構築する機会になることを期待しています。

招待講演者や一般の発表など、会議の詳細は、下記の組織委員会ホームページでご確認下さい。

日本 ISPA 組織委員会

石澤公明 (委員長: 宮城教育大学), 小柳敦史 (作物研究所), 中園幹生 (東京大学), 吉岡俊人 (福井県立大学), 渡邊肇 (東北大学), 間野吉郎 (畜産草地研究所), 島村聡 (作物研究所)

問い合わせ先

〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉 149 宮城教育大学教育学部 石澤公明
e-mail: kimiharu@staff.miyakyo-u.ac.jp, 電話: 022-214-3425, FAX: 022-211-5791

ホームページ

日本 ISPA 組織委員会による案内: <http://ispa-japan.miyakyo-u.ac.jp/>
協賛の OECD 事務局による案内: <http://www.jircas.affrc.go.jp/event/2007/20071118.html>